

# 県民を湧き立たせる環境県を

村正義



長浜で環境メッセが開かれた。

去年は観る機会を逸したので、今年はず

起きをして東京から新幹線で出かけた。二

〇一のブースに多くの企業や団体が出品し、  
むし暑い会場ではあったが、環境ビジネス  
への強いふきが感じられた。びわ湖畔か  
ら世界に向かっている環境情報のアピールと  
しても有意義であった。せっかくのイベン  
トをつぎは名実ともに世界的なレベルのメ  
ッセに発展させていってほしいと思う。

滋賀県民は、あの赤潮の発生からさまざま  
まな環境保全へのとりくみを進めてきた。  
当時、私は「びわ湖が悲鳴をあげている」  
と申しあげた。一口に一粉石けん運動とい

うが、あの頃の粉石けんは、有燐合成洗剤  
より約一割も値段が高かったし、洗濯をす  
るためにはずいぶん手間ひまもかかった。  
それでも実に七〇%にまで自発的に粉石け  
んへのきりかえが行われて「びわ湖条例」  
が誕生したのである。「これこそ愛国運動で  
すよ」といつてくれた外国人もいたが、私  
は健全な「自治」の姿を肌で感じた。

こうした背景から来年は先進国の環境大  
臣会合が開かれ、再来年は世界湖沼会議も  
びわ湖に戻ってくるという。けっこうなこ  
とであるが、どうかイベントやパフォーマ  
ンスだけの環境県にしないでほしい。ほと  
んどの県民が、経済やくらしのなかで環境  
への危機を感じている。その健やかな心を  
呼びさまし、多くの県民を湧き立たせるよ  
う行動が澎湃して起こってくる環境県をめ  
ざしてほしい。

今がそれが可能であり、必要な時だと考  
えるからである。